

令和2（2020）年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立瓜破小学校

令和2（2020）年4月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全国学力・学習状況調査において、基礎・基本及び活用に関する問題の正答率に課題があると見受けられる。このことから語彙力・読解力・伝え合う力などの言語活動の充実を図ることが大切だと考える。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 令和 3 年度の全国学力・学習状況調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 90% 以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和 3 年度の全国学力・学習状況調査における活用に関する問題の正答率 8 割以上の児童の割合を、平成 28 年度より 5 ポイント向上させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。
○小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 85% 以上にする。
○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
○年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 年度末の児童アンケートにおける「自分を大切にしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 85% 以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
○小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
○小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
○小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、総合評価「C」以上の児童の割合を 50% 以上にする。

学校園の年度目標

- 年度末の児童アンケートにおける「友だちと学習することや、みんなで活動することは楽しい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 90% 以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小中学校）

- ・「いじめ」の定義を共通理解し、学校全体でいじめを認知した場合はすぐに対応し、解決するようにつとめてきた。解消した割合は、中間アンケートでは、66%であったものが、12月末で86%になった。以後解決した事例もある。
- ・年度末学校アンケートで「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合は86%であった。目標の85%を上回っている。
- ・年度末の学校アンケートで、暴力行為を複数回行う加害児童数は0（12月末時点）で、前年度も0であった。
- ・年度末の学校アンケートで、新たに不登校になる児童の数は4（12月末時点）であり、前年度も4であった。

学校園の年度目標

- ・年度末児童アンケートで「自分を大切にしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合は91%で、目標の85%を上回っている。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小中学校）

経年調査の結果待ちであるが、スマールステップを意識した授業づくりを行ったり、学習中のマスクの着用の徹底した上での交流活動を行ったりした。また、ICT機器を活用した集会活動も可能な範囲で行った。従来通りの学習活動はできなかったが、可能な範囲で友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできるような取り組みも進めてきた。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査については、本年度は実施していない。新型コロナウイルス感染症対策に加え、校舎改築工事の影響で児童が伸び伸びと体を動かす機会は少なかったが、児童が目標設定を行って運動できるような授業内容の工夫や体育委員会によるあそび週間の提案、休み時間の学年割り振りによる遊ぶ時間と場所の確保等、児童が進んで体を動かせるような取り組みを可能な範囲で行った。

学校園の年度目標

各学年で、自分で学習計画を立てて学習し、ふりかえる授業実践を行ってきた。それに加え、12月から、週末の家庭学習に、自分で学習計画を立てて学習し、ふりかえる「瓜っ子学習」を全校の取り組みとして行った。児童アンケートにおける「自分で学習計画を立てて学習し、ふりかえりを行い次の学習に活かそうとしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合は1回目の49%が2回目には58%に上昇した。指標の60%には到達していないものの、授業実践の取り組みや瓜っ子学習の取り組みは一定の成果があったと考えられる。

また、これらの取り組みによって、それぞれの児童の教科毎の興味の度合いを指導者が把握して指導に活かすこともできた。教科学習以外でも、自分の興味がある分野について主体的に調べたり歌や鉄棒などを自主的に練習したりする児童や、週末以外にも瓜っ子学習に取り組む児童も現れた。

今年度、新型コロナウイルス感染症対策に加え、校舎改築工事の影響で普段の活動が制限されるなか、授業実践や家庭学習を工夫し、自ら学ぶ意欲を高め、学力の定着を図った。学校全体として自ら進んで学習に取り組む児童の姿は増えてきた。一方で、学力にはまだ課題が残り、基礎基本の未定着の児童もみられる。来年度も引き続き、学習意欲をさらに喚起させ、学びの力のさらなるを充実をめざす。

大阪市立瓜破小学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】	
<p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を85%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○年度末の児童アンケートにおける「自分を大切にしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1：安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>○清掃活動への意識を高め、たやすい清掃用具の使い方を身に着け主体的に清掃活動に取り組めるようにする。</p> <p>指標</p> <p>○校内アンケート調査で「ていねいにそうじをしている」の項目で、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【施策2：道徳心・社会性の育成】</p> <p>○学校や社会のきまりを守ることや、場に応じたあいさつができるように、毎月生活目標を設定して児童に意識させる。</p> <p>○いじめや問題行動の早期発見・早期対応に努める。</p> <p>指標</p> <p>○校内アンケート調査で「先生や友だち、地域の人たちにあいさつしている。」の項目で、肯定的な回答をする児童の割合を75%以上にする。</p> <p>○児童理解を深める研修を月1回行う。</p>	B
<p>取組内容③【施策2：道徳心・社会性の育成】</p> <p>○多様な特性への相互理解を深め、一人ひとりの自尊感情を育てていく。</p> <p>○アンガーマネジメントの研修・取り組みを年1回行う。</p> <p>指標</p> <p>○校内アンケート調査で「自分を大切にしている」の項目で、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。</p>	B

取組内容④【施策 3：地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】

○家庭・地域・外部団体との連携を図り、多様な体験学習を実施していく。

C

指標

○PTAや地域の方と触れ合う活動や、各種団体と関わる活動を年間10回以上実施する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】

全市共通目標（小中学校）

- ・「いじめ」の定義を共通理解し、学校全体でいじめを認知した場合はすぐに対応し、解決するようにつとめてきた。解消した割合は、中間アンケートでは、66%であったものが、12月末で86%になった。以後解決した事例もある。
- ・年度末学校アンケートで「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合は86%であった。目標の85%を上回っている。
- ・年度末の学校アンケートで、暴力行為を複数回行う加害児童数は0（12月末時点）で、前年度も0であった。
- ・年度末の学校アンケートで、新たに不登校になる児童の数は4（12月末時点）であり、前年度も4であった。

学校園の年度目標

- ・年度末児童アンケートで「自分を大切にしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合は91%で、目標の85%を上回っている。

取組内容

取組内容①

- ・年度末アンケートでは、「ていねいにそうじをしている」の項目で、肯定的な回答をする児童の割合は90%で、中間アンケートより11%増加し、目標の85%を上回った。コロナ対策として教職員による清掃・消毒作業から段階的に児童による清掃活動に移行した。3学期からは毎日清掃タイムに児童が教室・廊下をほうきによる清掃を中心に行った。通常時より限られた清掃活動であるが、児童の中には、清掃個所を自分で見つけて取り組んだり清掃の仕方を工夫したりなど生き生きと清掃に取り組む姿が見られた。また、6年生が清掃タイムに1年生の掃除に参加して清掃用具の使い方や声のかけ方をアドバイスするなど、今年度控えられた数少ない交流活動の場にもなった。

取組内容②

- ・年度末アンケートでは、「先生や友だち、地域の人たちにあいさつしている」の項目で、肯定的な回答をする児童の割合は76%で、中間アンケートより4%減少したものの、目標の75%を上回った。全児童揃っての朝会や集会は各教室でテレビやTeamsを通じて行った。互いにあいさつをしあう間面は限られていた。そんな中、児童会の運営委員会が中心となってのあいさつ運動の取り組みや、各委員会の取り組みを通して子どもたちはそれぞれの教室であいさつを行っていた。中間・年度末のアンケートで同じ割合の児童が「とても思う」と答えている。

取組内容③

- ・年度末アンケートでは「自分を大切にしている」の項目で、肯定的な回答をする児童の割合は91%で、中間アンケートより6%増加し、目標の85%を上回った。アンガーマネジメントの職員研修や、5・6年生のアンガーマネジメントの授業の他、朝会で校長が児童に、よりよく生きるヒントとして「怒りのコントロール」「7つの習慣」のテレビ講話を継続して行った。それを活かしながら学級指導や生活指導に生かしていくことができた。また、児童理解を深める研修は月1回行うことができた。

取組内容④

- ・コロナのため、可能な範囲で進めることができた。

次年度への改善点

【取組内容】について

取組内容①

- ・正しい清掃用具の使い方が身についているとはいえないで、継続指導を行う。

取組内容②

- ・挨拶を自ら進んでいれるよう継続指導を行う。

取組内容③

- ・朝会で生活目標に触れる機会（生活目標にまつわる子どもたちのホットなエピソードなど）を継続して持つ。
- ・今年度「実施できた・できなかった取り組み」を整理し、コロナの状況を踏まえ、指標・取り組み内容の見直しを行う必要がある。

大阪市立瓜破小学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。</p> <p>○小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、総合評価「C」以上の児童の割合を50%以上にする。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○年度末の児童アンケートにおける「自分で学習計画を立てて学習し、ふりかえりを行い次の学習に活かそうとしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を60%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5：子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</p> <p>○子どものレディネスを本人と指導者の双方が把握し、個別最適化された学びの環境を整える。</p> <p>○個別最適化された学びを行うために、学習の系統をしっかりと理解したうえで、スマートループを踏まえた学習活動が行えるようにする。</p> <p>指標</p> <p>○児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を75%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【施策5：子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</p> <p>○子どもが「学習の計画・主体的で対話的な学習・ふりかえり」のサイクルで学ぶことができるようとする。</p> <p>指標</p> <p>○児童アンケートにおける「自分で学習計画を立てて学習し、ふりかえりを行い次の学習に活かそうとしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を60%以上にする。</p>	B

<p>取組内容③【施策 7：健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもが自己の運動能力を把握し、自ら目標設定を行い意欲的に運動に取り組めるようにする。 ○運動を楽しみながら行えるように授業や体を動かす機会を工夫する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、総合評価「C」以上の児童の割合を 50 % 以上にする。 ○児童アンケートにおける「体を動かすことが好き」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 85%以上にする。 	B
<p>取組内容④【施策 7：健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保健だよりや保健指導を通して、健康の大切さを指導する。 ○給食の時間や栄養指導を通して、望ましい食習慣を身につけることができるよう指導する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎日の「手洗いタイム」や学期に 1 回の「けんこうチャレンジ週間」を実施し、児童アンケートにおける「手洗い・うがいをきちんとしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 90%以上にする。 ○衛生に関する指導や食に関する指導を月 1 回以上行う。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

全市共通目標（小中学校）

経年調査の結果待ちであるが、スマールステップを意識した授業づくりを行ったり、学習中のマスクの着用の徹底した上での交流活動を行ったりした。また、ICT 機器を活用した集会活動も可能な範囲で行った。従来通りの学習活動はできなかつたが、可能な範囲で友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできるような取り組みも進めてきた。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査については、本年度は実施していない。新型コロナウイルス感染症対策に加え、校舎改築工事の影響で児童が伸び伸びと体を動かす機会は少なかつたが、児童が目標設定を行って運動できるような授業内容の工夫や体育委員会によるあそび週間の提案、休み時間の学年割り振りによる遊ぶ時間と場所の確保等、児童が進んで体を動かせるような取り組みを可能な範囲で行った。

学校園の年度目標

各学年で、自分で学習計画を立てて学習し、ふりかえる授業実践を行ってきた。それに加え、12 月から、週末の家庭学習に、自分で学習計画を立てて学習し、ふりかえる「瓜っ子学習」を全校の取り組みとして行った。児童アンケートにおける「自分で学習計画を立てて学習し、ふりかえりを行い次の学習に活かそうとしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合は 1 回目の 49% が 2 回目には 58% に上昇した。指標の 60% には到達していないものの、授業実践の取り組みや瓜っ子学習の取り組みは一定の成果があったと考えられる。

また、これらの取り組みによって、それぞれの児童の教科毎の興味の度合いを指導者が把握して指導に活かすこともできた。教科学習以外でも、自分の興味がある分野について主体的に調べたり歌や鉄棒などを自主的に練習したりする児童や、週末以外にも瓜っ子学習に取り組む児童も現れた。

取り組み内容

- ① ・算数科を中心に可能な範囲で児童と指導者がそれぞれのレディネスを把握しようと努めた。把握したことをもとに、児童の実態に合った指導をスマールステップで行った。児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合が 81%で、指標の 75%を上回った。
- ② ・各学年で、自分で学習計画を立てて学習し、ふりかえる授業実践を行ってきた。授業のふりかえりでは、「今日は○○について分かった」「次は○○について調べたい」等、毎回の学習が次の学習につながっているという反応が見られた。週末の家庭学習についても、自分で学習計画を立てて学習し、ふりかえる「瓜っ子学習」を全校の取り組みとして行った。児童アンケートにおける「自分で学習計画を立てて学習し、ふりかえりを行い次の学習に活かそうとしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合は 58%で、指標の 60%をわずかに下回った。
- ③ ・緊急事態宣言が再発令されたり、校舎改築工事の関係で運動場が狭くなったりした影響で思うように体育の授業ができなかつたが、体育委員会によるあそび週間の提案、休み時間の学年割り振りによる遊ぶ時間と場所の確保等を行うことで、指標に近づけることができた。体育科の表現運動領域もソーシャルディスタンスを保ちながら、取り組むことができた。児童アンケートにおける「体を動かすことが好き」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合は 81%で、指標の 85%より下回った。
- ④ ・1日3回の「手洗いタイム」で音楽を流したり、健康チャレンジ週間では、児童自らが手洗いについてふりかえったりしたこと、意識を高めることができた。声をかける前に自主的に手洗いを行う児童が多く見られた。うがいについては衛生面の配慮から、学校での啓発は控えるようにした。衛生に関する指導や食に関する指導の計画を立て、月1回以上行い、児童の意識を高めた。児童アンケートにおける「手洗い・うがいをきちんとしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合は 90%で、指標に届いた。

次年度への改善点

【取組内容】について

- ・レディネスの把握や児童の実態に応じたスマールステップの指導を継続して取り組む。
- ・「瓜っ子学習」に取り組むのが遅かったので、来年度も継続して行っていく。
- ・次年度も運動場が狭いので学年別のかけあし週間など、可能な範囲で体力の向上に関する取り組みができるかの検討を続けていく。
- ・学校では「手洗い」のみ徹底し、「うがい」について家庭で行うように指導・啓発を行う。